

ツマラン男のツマラン独りごと

岡本 孝哉（岡山県職OB）

格調の高い畜産専門誌に全く関係のない、ツマラン事を投稿し失礼とは承知の上です。ご笑覧ください。

畜産関係を離れて25年。超高齢化社会に仲間入りし、86年間の人生は平坦な道ばかりではなく、山有り川有りの生涯でしたが、今日まで生き延びて来た事を感謝しています。

さて、私は生まれつき身体も頭も弱く、特に頭はアイキュー（知能）指数、精神年齢も低く、発達障害で、チビ助。ノータリン（脳たりん）といわれ、年と共に今度はツマラン奴と呼ばれ。何がツマランのか分からず、おかげで心臓、脳の血管がツマルことなく今日まで生きています。昔から「青天の霹靂」という言葉がありますが、私の生涯を通じて、この言葉が心の奥まで残っている中で、特に、軍隊生活と妻の死を中心に書いてみました。

（1）「戦病死する事95%確実な軍隊生活」

太平洋戦争末期の昭和19年補充兵として招集され、中国大陸内陸部の山西省東南部に駐留する歩兵部隊（独立歩兵）14旅団。4コ大隊編成で占領地域の警備と討伐を主とする軽装備の部隊で、大隊入隊後3ヶ月間の初年兵の教育。山西省特有の八百米級の黄土高原盆地で、冬は零下30度、夏は40度を超す猛暑の中での訓練。筆舌では表現できないもので、夜は軍人精神注入という名目で、毎夜なぐられ、その上、精神的制裁と殴られた後で、「有り難うございました」と云い訳ひとつも云えず「殴られたお礼を言う矛盾かな」。毎夜、ベッドの中で枕を涙で濡らした。

教育終了後各中隊に配属。半人前の兵隊となり、広大な占領地域の警備、討伐、本部での衛兵勤務。零下30度近い深夜の歩哨。防寒具に身を固め、満天の星空を眺めながら、祖国で家族、彼女も同じ星空を眺めているか、どうしているか、ふと任

務を忘れて感傷にふける時間。方分遣隊のある方向で、灯りの点滅信号。犬の遠吠え、すわ敵襲か。先般も少しの油断で分遣隊全員全滅という悲劇が生じただけに、責任の重大さを感じつつ、勤務2千米級の岩山の太行山脈の山波みの中、峻険冒す道無き道を踏みこみ5日にあけずの討伐と八路军（中共軍）との交戦。体重に近い装具を身につけての夜の強行軍。体力不足を気力で補うも限界に達し、逃亡を考えるも、岡山駅を出発時、母親と彼女が必ず生きて帰れと云われた言葉が脳裏に浮かび、どれだけ精神的に支えになったことか。約2ヶ月後、旅団司令部獣医部へ転属。同じ戦地でも中隊とは月とスッポンの勤務でした。補充兵の私がマサカ獣医部甲種幹部候補生に採用されるとは。南京の総軍司令部直属の教育隊で集合教育。6ヶ月後、終戦。私に獣医師の資格がなければ、今頃は故陸軍一等兵〇〇之墓間違いなし。21年3月復員。県職員採用。結婚と順調な時でした。

（2）昭和29年肺結核入院右胚上葉切除手術

約1.5年の入院生活。肺の一部を盗まれ肺活量1500の低空飛行の生活でした。

（3）畜産公社出向の2年間

何の因果で公社へ来たか、色は黒ろうなる身は痩せる。肉用牛繁殖センターで炎天下の下、乾草づくり。原滋さん、牧野充伸さんと3人で大声で、この歌を歌いながらの作業。今でも忘れることがありません。2年目に神経性十二指潰瘍で3カ月の入院生活。原さん、牧野さんのご両人にはお世話のかけっ放しでした。54年に県を退職。その後、家畜畜産物衛生指導協会（現畜産協会）へ再就職。61年6月退任まで、7年間なにも船長。云うことは機関長。後で航海長でした。在任中に生乳格付け、細菌検査業務を県から引き受けたことだけでした。退職後は福祉の道に入り、民生委員、障害者相談員、地区社協会長、メンタルヘル

岡山畜産便り 2009.08

スボランティア、障害者作業所支援ワーカーと約20年間、60の手習いで良い勉強をさせて頂きました。

(4)「テレビ初出演」

東京テレビ放映の「田舎に泊まろう」で、吉本興業専属タレントの友近さん一行が前ぶれもなしに我が家を訪問。問答の末、一泊。夜遅くまで馬鹿話に花を咲かせたことも良い思い出となっています。

(5) 60年間苦楽を共にした妻の急死

昨年7月28日の朝、妻が脳内出血で倒れ、薬石効なくその日の夕方、85歳で不帰の人となり、人の命の儚さと命の尊さを知りました。

余りの突然の事で、精神的ショックを受け、約1

カ月間、食欲不振、不眠、引きこもり状態となり、生活不活発病となるも、日を重ねるごとに体調も戻り、今は元気になっています。

毎日墓前で1日の出来事を独り言。後はグチの繰り返し。せめて、1カ月でも介護してやりたかったと悔やまれます。どうか皆様、奥様のご健在の内に大事にしてあげてください。後で後悔が残らないように。

最後に亡き妻を偲んで

妻逝きて妻を知る悲しみが風にちぎれて癒える時 雨が降る降る雨が降る心の中に妻の死の夜

共に生き、共に死にたい夫婦でもやがては1人1人に還る。皆様のご健康とお幸せを念じつつペンを置きます。